



薬師寺小だより

平成28年 9月
下野市立
薬師寺小学校長
鈴木 一恵

薬小っ子スタンダード
当たり前のことを
当たり前に行える子に



自分のことは
自分でする

やさしく



テレビやゲームの
時間を決める

かしこく



家族と一緒に
正しい食習慣

たくましく



いよいよ前期後半スタート! 待っていました! 子供たちの元気な姿!

42日間の長い夏休みが終わり、元気な子供たちの姿が学校に戻ってきました。全員が夏休み前の集会で約束した「9月1日交通事故や水の事故などに遭わないで元気に登校する」を立派に果たしてくれました。ひとえにご家庭や地域の皆様、さらにプール監視当番の皆様のお陰です。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

校長からの宿題「**元気活用ミッション4**」の方はいかがでしたでしょうか。

その1 **元気をく**ること

早寝早起き朝ご飯、外遊び

その2 **元気をづ**けること

交通事故や水の事故などに遭わない

その3 **元気をか**うこと

「〇〇をがんばる」「□□ができるようになる」の目標を決める

その4 **元気をた**えること

家族や地域の人への挨拶、お手伝い、地域の行事に参加

夏休みが終わり、一層逞しく成長した子供たちの姿を目にし、元気をいっぱい活用した夏休みであったことがよく分かりました。

全員に100点満点をあげたいと思います!

これからも育てていきましょう自尊感情

ところでお子さんの心の4匹の魚は、上手にキャッチすることができましたか?

愛されたい

褒められたい

認められたい

人の役に立ちたい

大人も子供も自分自身を肯定的に捉えてもらえることは、自信や勇気につながり、心身に明るく健康に、よりよく生きていくための心の支えとなるものです。

特に成長期にある子供たちは、周囲の人々から承認されることによって、自分の存在を意識し、「自分が好き」と思う気持ち(自尊感情)を心にたくさん蓄えることが大切です。

学校では9月以降も運動会や学校祭等でお子さんの活躍の場を広げ、がんばったりできるようになったことを褒め認めて参ります。

ご家庭でも引き続きお子さんの話に耳を傾け4匹のたいをキャッチしてあげてください。



水泳は自分の命を守る手段

夏休みのプール開放は12回予定していましたが、低気温のため4回も実施不可となってしまいました。でも、実施日には多くの子供たちで賑わい、延べ408人の児童が利用しました。



「水泳指導は自分で自分の命を守る手段を教えること」と体育主任の塩田教諭は言います。海無し県の子供にとっては特に大切なことですので16日頃まで実施する予定です。

お盆前にはポンプが故障するというアクシデントに見舞われ慌ててしまいましたが、関係職員の迅速な対応により修繕が済み、9月もプール実施が可能となりました。



夏休みも頑張りました 子供たちも先生たちも

6日間(1日2コマ)の学習支援のための教室を用意しました。夏休みの課題を計画的に進めることや学習の習熟を目的とした自主学習形式でしたが、連日、多くの子供たちが利用しました。自分で決めた教材を持参し、目当てに向かって熱心に学習に取り組んでいる姿にとっても感心しました。



毎回、教室では担当教員が指導にあたりました。分からないところを教えたり、学習の相談にのったりと、自主的に参加する子供たちに応えようと熱心に指導していました。

新採教員の安生教諭は「夏休みになり子供たちがいない学校にどこか物寂しさを感じていましたが、学習支援で子供たちに会えるのが楽しみです。」と子供たちの登校を心待ちにしていました。

教員も夏休みを利用して研鑽に励みました。特にこれから益々強化される「外国語活動」の研修では、下野市のALT5名を招いて英語でのコミュニケーション力を養っていました。

子供たちの前で「教師自身が英語を学ぶモデルでありたい」という思いが会場に溢れていました。



PTA奉仕作業に感謝！ 素晴らしい薬小のPTAパワー！

8月27日（土）午前7時からPTA奉仕活動が実施されました。大変お世話になりました。夏休みの最後の休日を返上し学校のためにお越しくくださったことは本当に尊いことです。心から感謝申し上げます。

薬小の伝統なのでしょう、皆さんの一致団結した協力体制は本当に素晴らしいですね。「地域とともにある学校」を実感しました。

プール清掃では、開放終了後、水を抜き汚れが残っている状態でしたが、ブラシで一生懸命に擦っていただき、きれいなプールが蘇りました。「夏休みに〇〇プールに行ったけど、薬小のプールの方がきれいだったよ。」と話してくれた子がいました。子供が実感するほどきれいなプール、すごいですね。



樹木の剪定や栽培園の除草、うさぎ小屋や校舎、トイレの清掃なども、手際良く進めていただき、1時間の活動とは思えぬほどきめ細やかに行ってくださいました。

9月を迎え改めて栽培園を見てもみると、子供たちの植えた苗をちゃんと残しておいてくださったことに気付きました。台風の通過なども感じさせぬほど、優しく起こしてくださいました。

9月1日暑い中を登校してきた子が自分の苗を見つけ、持っていた水筒の水をあげている光景を目にしました。

9月以降も子供たちは夏休み前と同じように野菜の観察をすることができます。薬小のように夏休みを越えても栽培活動を継続できる学校はなかなかありません。感謝です。

教職員も共に清々しい汗を流すことができました。きれいな環境で運動会の練習ができることをとても嬉しく思います。



夏休みには、プール監視のほか、8月3日のPTA研修（工場見学）や6年親子レクなどが行われました。係の皆様を始めご参加いただいた皆様、大変お疲れ様でした。

9月2日にPTA役員会が行われました。

運動会や薬小祭、廃品回収などのことが議題となりました。熱心な話し合いの様子を伺いながら大切な学校行事の一つ一つがPTA活動に支えられていることを実感致しました。

運動会スローガン決まる！

いざ勝負！ 全校児童協力し、高め合う運動会

9月24日（土）運動会が開催されます。各学年ではチーム分けやリレー選手決めなどが進められています。趣向を凝らしたダンスや団体種目の練習もスタートしました。

今年はオリンピックが開催され、運動会ムードも一層高まることでしょう。下野市出身の高藤選手（柔道）の気迫溢れる姿からも大きな勇気をもらいましたね。

心に残る名場面もたくさんあり、活躍された選手達の言葉も印象的でした。

「〇〇さんがいたからがんばれた。」

「△△さんの頑張る姿に勇気をもらった。」

「□□さんを手ぶらで帰せない。」

など、仲間を意識した言葉が数多く聞かれました。

また、これから始まるパラリンピックに出場するある水泳選手は、

「あきらめないで頑張ればここまでできるという姿を見せたい。」

と話していました。向上心溢れる抱負です。

本校児童が作ったスローガンには、正にオリンピックやパラリンピック選手と同じように仲間意識や向上心といった気持ちがしっかりと入っていることに驚きました。薬小アスリートの活躍ぶりが楽しみですね。

運動会は学校のビックイベントです。我がチームの勝利を願って力を合わせ正々堂々競い合うことでしょう。保護者の皆様の温かいご声援をお願いします。



パラリンピック選手を支える人の話

NHK『プロフェッショナル』という番組で義肢装具士という職業を取り上げていました。冒頭、都会の交差点を歩き交う人々の足下が映され、「歩く」という何でもないはずの日常を奪われてしまった人が国内だけでも6万人いると報じていました。

病気やけがで足を失った人々が「歩く」という日常を取り戻すことができるよう、その人に合った義足を作る仕事をする人の話でした。

紹介された臼井さんという方は「義足スポーツ」の立役者と言われており、日本の義足制作の第一人者だそうです。パラリンピック選手の姿には、感動と勇気をもらいます。その選手達の活躍の陰で苦悩と努力の日々を親身になって支えている方がいることを知りました。

スポーツの分野ではありません。病気で足を失った小学生の「走りたい」という願い、駅のホームに転落し両足を失った女性の「ハイヒールを履きたい」という願い、事故で大腿から切断した母親の「親子で買い物に行きたい」という願いを実現するために、温かく誠実な語りかけを繰り返しながら、精密な技術を施し、体に合った義足を完成させていく様子に感動を覚えました。